

丹波大納言小豆栽培における除草カルチ機利用法の確立

京都府農林水産技術センター農林センター

研究目的

水田転換畑での小豆栽培において、除草カルチ機による中耕除草が雑草防除効果および小豆の生育・収量に及ぼす影響を把握するとともに、除草カルチ機の現地適用性を確認する。

検討した中耕除草機械



中耕ディスク
(比較対照)



タイン式除草カルチ



中耕ロータリ
(慣行対照)

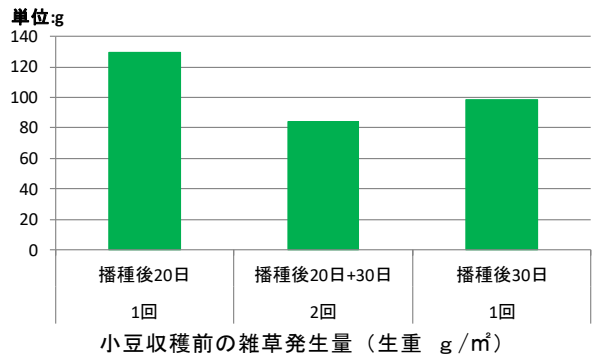
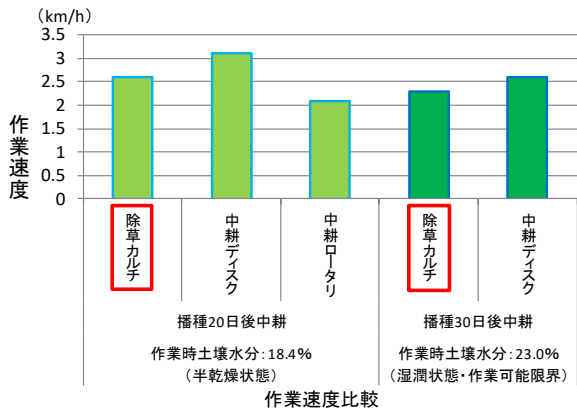
具体的な研究成果

- ・ タイン式除草カルチは作業速度が速く、大規模栽培に適用性が高いと考えられた。
- ・ 除草カルチによる中耕除草作業は、播種後20日+30日の2回作業抑草効果が高く有効である。
- ・ 除草カルチによる中耕除草では、中耕ロータリや中耕ディスクでの作業より収穫期のうねが高くなり、コンバイン収穫に有利である。

研究成果の活用場面、波及効果等

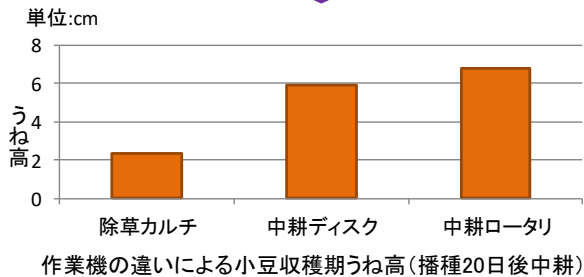
- ・ 集落営農組織や農業法人など、大規模栽培での雑草管理に有望な技術と考えられる。
- ・ 小豆のコンバイン収穫に取り組む大規模経営体が、本技術の主な普及対象である。
- ・ 生育期間中の茎葉散布除草剤が無い小豆では、他に代替手段が無い効果的な除草技術として活用が期待される。

具体的データ

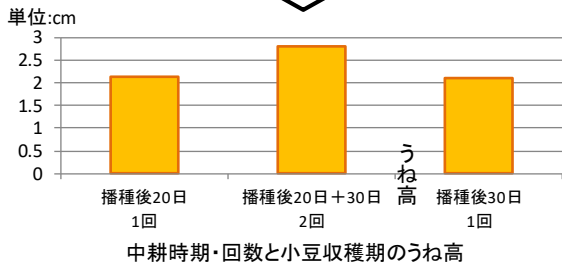


中耕作業速度は、普及している中耕ロータリや中耕ディスクと比較して速く行える。

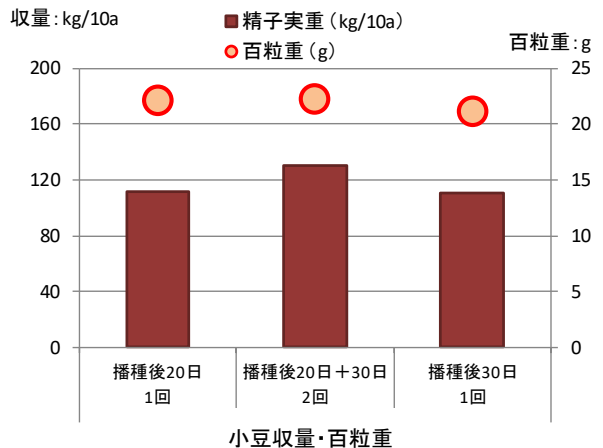
タイン式除草カルチによる中耕除草は、小豆収穫期のうね高を低く抑えることができ、コンバイン収穫に有利である。



タイン式除草カルチによる中耕除草では、中耕回数が増えてもうね高は大きく変わらない。



1回より播種後20日+30日の2回作業の抑草効果大きい。収量・粒大も向上する。



北海道の小豆栽培で普及しているタイン式除草カルチは、土質と気象が異なる京都府でも適用可能と評価できた。

今後の方向性

- 「中耕カルチ」による中耕作業時とその後の気象や土壌条件による除草効果および小豆の生育・収量への影響を把握する。
- 京都府内で急速に普及している狭畦密植栽培に適用性がある「除草カルチ」の利用法を検討し、より現地栽培に適応する除草体系を構築する。